

第 1 回 子ども部会

開催日時 令和 6 年 1 0 月 1 日火曜日 1 0 時～1 2 時

場所 新宿区第二分庁舎分館一階会議室

参加委員 塚本 三浦 石丸 早田 門脇 御所窪 友利

平原（ベビーノ・部会関係者）

事務局 武藤 中野

委員からのご意見

☆児童発達支援センター開設に向けて

- ・現状の課題を児童発達支援センターに期待することとして一緒に考えていく。
- ・障害児の親も含め誰もがわかりやすい制度と一緒に考えていく。（困ったときにどこにどうつながればいいのか……等）

☆障害児の家族について

- ・精神疾患の家族をどうやって地域で支えていくのか、また福祉部門とどう連携を取るかが課題である。
- ・障害児のセルフプランは家族が作っている。家族は専門家とともにセルフプランを作った方が良い。そうしないと障害児を親から遠ざけるような結果につながってしまう（障害児の短期施設等利用や通所の過剰な利用）可能性が懸念される。
- ・親の中にはとにかく障害児の子から離れたいと思っている者もいるように感じる。最近は SNS のつながりから都合の良い意見だけを親が拾ってきている部分が散見される。
- ・民生委員は何かを自分でやるのではなく、どこかの機関につなぐ役目。例えば、新宿チャレンジスポーツ文化クラブという誰でも所属できるスポーツ活動の場につないでいくことで地域と個人を結びつけている。こういった活動を利用できれば上記の家族問題も少し軽減できると思う。放課後等デイサービスの事業所が子供たちを連れて参加したりしている。

☆教育の現場について

- ・学校の先生は生徒（障害児）の将来について考えていかなくてはいけませんが、正直なところその後の生活についてわかっていないところがたくさんある。学校と障害福祉分野との連携はなかなか難しいのだけれども情報を教育の場に発信していく必要がある。

まとめ

- ・地域でのチーム作り～親の安心をどう作っていくのか。
- ・障害児家族、教育機関、障害福祉サービス等事業所で持っている情報がそれぞれバラバラであったり正確な情報を持っていない可能性が高い。発信の仕方をどのように行うのかを児童発達支援センターと一緒に考えていきたい。

これからの予定

- ・障害者当事者家族からヒヤリング。（友利さんに障団連からの紹介をお願いしている。中道的な人がベストである。
- ・当事者家族からのヒアリング後の子ども部会において子ども総合センターの関係者にも話を伺いたい。
- ・子ども部会は自立支援協議会全体会が終了した11月11日4時からあいあい、マイペースを見学する予定である。